

写真1　銅鳥居（明神型）と市谷亀岡八幡宮

近隣史跡の紹介

市谷亀岡八幡宮　銅鳥居

階段を上がった先にある市谷亀岡八幡宮（いちがやかめがおかはちまんぐう）※の銅鳥居（写真1）は、江戸時代の文化元年（1804年）に建立されました。その高さは、約5メートル、柱の直径は約50センチ。柱には、初願者・当八幡宮別当第七世智光、造立者・東円寺現住仁龍他7名、鋳物師・西村和泉家5代目当主藤原政平の建造銘と442人の寄進者の名が、その職業と共に刻まれており、当時の人々の仕事と信仰との繋がりがうかがえます。

鳥居の中央にある「八幡宮」の神額（写真2）は、播磨姫路15万石の藩主、酒井家11代当主雅楽頭忠道の書によるものです。八の字はご祭神の八幡神の使いである鳩を模しており、向かい合っているその姿は、とても微笑ましく思います。

銅製の鳥居は、新宿区内では唯一であり、区の有形文化財に指定（昭和62年）されています。

鳥居は、その材質・構造も多種多様で、一説には六十数種類の形態があるともいわれています。代表的なものとしては、鳥居上部の横柱が一直線になっている神明（しんめい）鳥居と、この横柱の両端が上向きに反っている明神（みょうじん）鳥居があります。

鳥居の起源については諸説あり、古事記「日本神話」の天岩戸のくだりに、天照大神が天岩戸に隠れた際、誘い出すために常世の長鳴鳥（とこよのながすさどり）を集めて鳴かせ云々とあり、その止り木であったものが、鳥の居場所の意から鳥居となったという説などがあります。

参考文献

市谷亀岡八幡宮
URL　http://www.ichigayahachiman.or.jp/
神社本庁
URL　http://www.jinjahoncho.or.jp/
新宿区
URL　http://www.city.shinjuku.lg.jp/kanko/file03_01_00001.html

※太田道灌（1432-1486年）が文明11年（1479年）江戸城築城の際、西方の守護神として鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊を祀ったのが始まりで、「鶴」に対し「亀」と称したとのことです。



写真2　「八幡宮」の神額

